

---

---

## <水球陣>七帝戦第1戦

H26.8.23 対九州大 @京大プール

東大 1 2 3 1 計7

九大 1 0 3 1 計5

得点者：浪間(5)、梶原(2)

七帝戦一日目第一試合。前年度の七帝戦で京大に奪われてしまった王座を奪還することが今大会の目標である。今大会は今までと異なり、全チームによる総当たりで順位を決める。優勝を目指す東大としては、当然全勝を狙っていく。この試合は確実に勝って、幸先の良いスタートを切りたい。

### 第1ピリオド

東大の攻撃で試合が幕を上げる。立ち上がりには失点することが多いため、慎重に試合に入りたい。早々に浪間が退水を誘発するも、この攻撃はオフサイドで敵ボールに。その後両チームとも得点できない時間が続くが、開始から4分、敵フローターに先制される。しかし、回し込みでペナルティスローを誘発した浪間が落ち着いてこれを決め、同点でこのピリオドを終える。

### 第2ピリオド

開始直後、浪間がバックシュートで得点する。ここからの攻撃はなかなか得点につながらず、逆にカウンターによるピンチを招くが、キーパー疋田の好セーブにより相手にも点は取らせない。そして、第2ピリオド終了間際、カットインした梶原が藤目からのパスを受け、華麗なループシュートを決める。その後の敵の攻撃を落ち着いて防ぎ、2点リードでこのピリオドを終える。

### 第3ピリオド

第2ピリオドで得たリードを広げたいこのピリオドだが、敵フローターの回し込みにより先制されてしまう。カウンターで梶原が取り返し、さらに浪間がフローティングで得点し3点差とするも、ミドルシュートなどにより連続で失点し、1点差に詰め寄られる。さら

に度重なる退水でピンチを招き、少々押され気味の展開となるが、なんとか失点を防ぎ、浪間が梶原の誘発した退水で得点し、2点のリードを守って最終ピリオドへ。

#### 第4ピリオド

九州大学からの攻撃で最終ピリオドが始まる。開始1分、谷口が退水して招いたピンチは正田の好セーブでしのぐ。しかし、敵フローターのループシュートが決まり、再び1点差に。一方東大は、池亀が退水を誘発するなどチャンスを作るも攻撃が噛み合わず、我慢の時間が続く。だが、ここで頼りになるのがエース浪間。ラスト1分で二人のディフェンスを背負いつつも、梶原からのパスをハンツーで決め、点差を2点に戻す。残りの攻撃は正田が落ち着いて防ぎ、7-5で東大が勝利した。

七帝戦第一戦をなんとか勝利することができた。細かいパスミスや不用意な退水などが多くみられ、攻撃が噛み合わないこともよくあった試合であったが、苦しい展開でも同点にされることなく、リードを守って勝ち切ることができたのは、自信にしてよいだろう。これで波に乗り、残りの試合も勝っていきたい。最後になりましたが、監督を務めてくださった有吉さん、本当にありがとうございました。

(文責 谷口遼)

---